

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：防災費 目：防災総務費

事業名 防災タウンミーティング開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 防災課 地域支援係 電話番号：058-272-1111 (内 2746)

E-mail：c11115@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,400 千円 (前年度予算額：2,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
要求額	2,400	0	0	0	0	0	0	0	2,400
決定額	2,400	0	0	0	0	0	0	0	2,400

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年、地球規模での気象変動の影響により、災害のリスクの高まりが指摘されている中、本県においては平成30年7月豪雨災害に続き令和2年7月豪雨災害においても甚大な被害を受けたところであり、迅速かつ安全な避難のための課題等が浮き彫りになった。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、県民の生活様式の変化とともに、災害への備え方にも変化が生じているところである。

こうしたことから、多様化かつ激甚化する災害に対して、県民一人ひとりが災害への備えについて考え、自ら身の安全を守る「自助」の意識・知識の向上を図るため、一層防災啓発に取り組む必要がある。

(2) 事業内容

地域の特性に即した防災啓発事業として「防災タウンミーティング」を県内の各地域で行い、県民の一層の防災意識・知識の向上による「自助」意識の高揚を図るとともに、地域における「共助」意識の向上や実践につなげていく。

(3) 県負担・補助率の考え方

県主催のため県負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	620	講師報償費
旅費	263	講師旅費等
需用費	1,133	消耗品費、印刷製本費、燃料費
委託料	90	各種セミナーの設営撤去、運營業務委託料
使用料及び賃借料	294	会場使用料、有料道路使用料
合計	2,400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県強靱化計画

第6章 計画の推進

(別紙2) 施策分野ごとの脆弱性評価

10) 地域づくり・リスクコミュニケーション

(防災教育の推進)

○県民の自助実践を促進する「災害から命を守る岐阜県民運動」については、「命を守るためのとっさの行動」を重点テーマに実施しているが、各家庭での防災対策が重要であることから、さらなる取組みが必要である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県民の災害に対する自助意識の向上と実践を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
タウンミーティング 参加者数	— (H)	1,348 人 (H30)	1,759 人 (R1)	1,200 人 (R3)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・県内 5 ヶ所で開催、約 500 人参加予定
- ・【飛騨県事務所】
令和 2 年 9 月 27 日 高山市高根町阿多野公民館（参加者 50 人）
- ・【岐阜地域防災係】
令和 2 年 10 月 14 日 羽島市福祉ふれあい会館（参加者 50 人）
その他各地域で開催予定

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
市町村と協力して開催することにより、より地域の特性に即した内容の防災啓発ができ、県民一人一人における「自助」意識の向上と、地域における「共助」意識の向上につなげることができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	集中豪雨や南海トラフ地震への懸念が高まっており、これらの災害に備え、命を守る防災意識・知識の向上を図るため、一層防災啓発に取り組む必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	アンケートでも好評で、自分の住んでいる地域での災害の危険性が認識できた、毎年開催してほしいとの声があり、多くの県民にその地域に即した内容の啓発や、防災意識の向上を図ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	市町村と協力をすることで、経費を抑え開催することができ、さらに、地域に即した内容の防災啓発をより多くの県民にすることができた。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後の集中豪雨、南海トラフ巨大地震などの災害に備え、命を守る防災意識・知識の向上を図るため、一層防災啓発に取り組む必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地域の特性に即した防災啓発事業として「防災タウンミーティング」を県内の各地域で行い、県民の一層の防災意識・知識の向上による自助意識の高揚を図るとともに、地域における「共助」意識の向上や実践につなげていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【 課 】
組み合わせる理由や期待する効果 など	